

## 大久保泰希 先生

群馬県立高崎高校

Okubo Taiki

志を高く持ち、  
ありたい自分を  
追い求める

**赴** 任後、初めて見た伝統の翠巒祭(すいらん)文化祭。1万人以上が来場する行事の企画・運営のすべてを担い、問題が起きても、皆で協力して解決する生徒の姿に圧倒されました。当時、教職5年目だった私は、そこで発揮されていた物事を深く考える力をさらに伸ばせるようにと、担当する英語の授業で、生徒同士の対話を基本とする言語活動の研究を重ねました。

そして、卒業後、社会をリードする役割が期待されている生徒に、社会に貢献する志を持つてほしいという思いから、現在は、衣服ロスや地球温暖化など、教科書の

素材文の内容に関連する社会課題について調べて、自分の考えを英語で述べ合う活動を授業の軸としています。昨年は、英語ディベートに初めて挑戦しました。県の英語研究会で指導法を学び、大学教育の無償化や日本の首都移転の是非をテーマに、肯定・否定の両方の立場を経験した後、改めて自分の意見を書く場を設けました。

そうした授業をする中で、「新たな考えを生み出せるようになった」「賛否両面を考える習慣が身についた」といった声が生徒から聞かれるようになりました。ある生徒は、病院での長い待ち時間に疑問を抱き、医療のデジタル化を探究学習の課題にして探究を進めた結果、県のビジネスコンテストで入賞。「大学では、社会に役立つデータサイエンスの研究をしたい」と、意欲的に話してくれました。

生徒は、私の想像をはるかに超えて成長していきます。私も一緒に成長していきたいよう、教師としてありたい自分をこれからも追求していきます。



生徒より

各

自が強烈な個性を持ちながら、団結力が強いのが、大久保先生の誇りです。大久保先生は、部活動や生徒会活動など、それぞれが熱中していることを尊重し、応援してくれたので、私たちも互いを認め、高め合う関係になれたのだと思います。英語の授業でも、互いに考えたことを述べ合えるので、視野が広がり、社会課題について深く考えるようになりました。「社会とつながって、自分は何ができるのかを考えよう」という大久保先生の言葉は、自分のあり方や将来を考える時の道しるべだと思っています。

おおくぼ・たいき 教職歴10年。同校に赴任して6年目。3学年担任(S)S Hコース。教務部。SSH部。外国語科(英語)。

群馬県立高崎高校 全日制/普通科/男子校/1学年約280人/2022年度入試合格実績(現浪計)国公立大は、北海道大、東北大、筑波大、群馬大、東京大、一橋大、京都市大、大阪大などに168人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大などに延べ759人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月~金8:00~18:00/土8:00~17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17